

# 新年度予算

# 子育て支援を拡充

## 市民の声が押しひろげた

2017年度予算では、市民の皆さんから寄せられた要望がいくつも取り入れられました。いずれも砂田喜昭市議が議会質問などで実現を求めてきました。

### 子どものインフルエンザ予防接種助成 実現

満1歳から小学生は2回で計4千円、中学生は1回で2千円の助成をします。

砂田市議は繰り返しこの実現を求め、市議会民生文教常任委員会も16年9月議会の委員長報告で取り上げました。新日本婦人の会小矢支部も市長との予算要望を訴えていました。

### 子ども及び妊産婦医療費助成

【呉西6市で窓口無料】

子ども及び妊産婦医療費の窓口負担無料の範囲を呉西6市の医療機関に拡大します。

### 就学援助の入学準備金 入学前に支給

就学援助の入学準備金を入学前に支給します。生活困窮世帯(小矢部市の場合、生活保護基準の1・5倍までの所得世帯)には学用品費や給食費、修学旅行費などを就学援助金として支給しています。小学1年生、中学1年生の入学前にはランドセルや制服などの経費も必要ですが、その支給時期が1学期の終わり頃でした。この改善を求めています。

### 多人数学級支援講師

小学3年生まで拡充

30人を超えるクラスに小矢部市独自に、もう一人補助の先生を配置しています。新年度から小学1年、2年生に加えて、小学3年生まで拡大します。



No. 195  
2017年4・5月号  
発行  
日本共産党  
小矢部市委員会  
小矢部市七社 245  
砂田喜昭  
TEL 67-4322  
FAX 67-4842

日本共産党発行  
赤旗  
日刊 3497円  
日曜版 823円

## おおたに第三放課後児童クラブ

## 急ぎよ、4月10日に新設

今年度、大谷小学校に併設されていた放課後児童クラブで、定員を大幅に上回ったため、小学4年生から6年生の27名が受け入れられない事態となっていました。急ぎよ、小学校の教室を活用して、おおたに第三放課後児童クラブを4月10日に新設し、希望者全員を受け入れることとなりました。3月議会予算特別委員会で砂田委員はこの問題を質問し、すぐに解決できました。

**砂田委員** 大谷小学校の放課後児童クラブで27名も受け入れできなかった。このような事態を事前に把握できなかったのか。

**子ども課長** 平成28年度は定数に余裕があったので、4、5、6年生を14名受け入れていたが、29年度は1、2、3年生の申し込みが96人あり、さらに4、5、6年生の申し込みが27名、特に4年生が17名と非常に多かった。定員に余裕がないことから4、5、6年生の申し込みを断った。

**砂田委員** 27名も断わらなければならぬのは異常事態だ。すぐに改善する手立てをとっていただきたい。

**子ども課長** 今後どのようにするか対応していきたい。

**砂田委員** 市長さん、前向きに動くようにしてもらえないか。

**桜井市長** 私も一昨日、その話を聞いて、驚いたところだ。放課後児童クラブは県内でも

## 放課後児童クラブ 指導員の処遇改善で

## 砂田市議 政府交渉

日本共産党富山県地方議員団は2月2日、参議院議員会館において政府交渉をし、砂田喜昭市議は放課後児童クラブ指導員の処遇改善を求めました。

厚生労働省は平成29年度予算案において、放課後児童クラブ運営の実態をふまえて人件費の補助を、40人程度の児童クラブではこれまで年間370万円だったものを430万円に増額すること答えました。

## 共謀罪ゆるすな!

## 石動駅前で宣伝行動

憲法を守る小矢部の会のメンバー10名は4月17日朝、石動駅前、「共謀罪を許すな」と宣伝行動をしました(写真)。

「共謀罪」法案は、「戦争反対」など自主的な市民運動を弾圧する危険を持った法案です。国会では思想信条の自由を侵すとして過去3度も廃案になったものを、安倍自公政権が4たび持ち出しました。警察が、犯罪を実行前に、話し合い合意したと把握するには電話・LINEなどの盗聴や、スパイ活動しかありません。戦前の治安維持法の復活で、絶対に許されません。



## ひろば

毎年元気な花を付けていた藤の花芽がしおれているようだ。一冬も腰水をしていたためではないか。水盆から鉢を取りだしたら、翌々日には葉芽らしきものが芽吹き始めた▼モミジのたくさん鉢も、この3月にほとんど植え替えをした。はやいもので葉が開いてきたもの、ようやくつぼみが膨らみつつあるもの、細い糸のような葉を見せているもの、驚の爪のような芽出しのもの、いろいろな個性があつて、毎日眺めるのが楽しい▼教室で子どもを眺める教師の目にも通じるのかな。恩師に、県教組役員を兼ねた校長という誘いを蹴って担任で終えた方があつた。昔宿直室にいたら子どもたちが遊びに来たそうだ▼いまも教師の喜びは同じとは思うが、現場からは悲鳴の声が聞こえてきた。「教師に全体的なことが負ぶさつて、みんないつ倒れてもおかしくない、実際順番に倒れている」「毎日夜遅くまで働いているのだから、タイムカードでも作って把握して欲しい」▼市議会での問題をとり上げた、「入校最早時間、退校最遅時間はどうか」と▼答弁で「小学校では最早時間午前5時15分、退校最遅時間午後11時40分、中学校では最早時間午前3時30分、最遅時間日付が変わって午前0時30分」これには議員席からも驚きの声があがった。平均でも毎日12時間近く学校にいる▼報告や行事に追われていては、ゆとりをもって子どもたちの様子を見ればおれまい。教師の多忙化解消に向け少人数学級こそが、一人ひとりの子どもの個性を伸ばす道だ。いよいよ政治の役割を發揮するときではないか。